

学びのイノベーション事業 授業実践報告 様式

学校名：城東中学校

授業の概要	
授業日時・学年・教科・単元名等	
授業日時：平成25年 1月	
学年： 2年 1組	教科：国語科
単元名：身近な人の「物語」を探る	
ICT支援員によるサポート <input type="checkbox"/> 授業中 <input type="checkbox"/> 事前	
単元・題材の目標	
「身近な人の『物語』を探る」	
1 話の構成や展開などに注意して、筋の要点を聞き取ることができる。	
2 事実や意図が効果的に伝わるように、構成や表現を工夫して書くことができる。	
単元全体の流れ	
1 教科書の本文を読み、インタビューをするためのノウハウを理解する。	
2 実際にインタビューをする前段階として、ある有名人を一人選び、その人へのインタビューを行うため、その人物についてPCでインターネットを使って調べる。	
3 実際にインタビューを行う。親、兄弟、先生、友だちなどから一人選び行う。2人一組となり、それをi-padを使って撮影し、発表する。	
4 その映像を見て、互いに意見を述べ合う。	
本時の中心となる授業形態	
<input type="checkbox"/> 一斉学習 <input type="checkbox"/> 個別学習 <input type="checkbox"/> 協働学習	
本時の目標（評価の観点）	
1 インタビューを行い、そこで話の要点を聞き取れているか。	
2 話者として話の構成や表現について工夫できているか。	
3 照れずにインタビューできているか。	
情報通信技術の活用	
活用した場面	
<input type="checkbox"/> 導入 <input type="checkbox"/> 展開 <input type="checkbox"/> まとめ <input type="checkbox"/> その他（ ）	
活用した者	
<input type="checkbox"/> 教員 <input type="checkbox"/> 生徒	
活用する目的	
<input type="checkbox"/> 課題の提示 <input type="checkbox"/> 動機付け <input type="checkbox"/> 興味・関心の創出 <input type="checkbox"/> 目的や目当ての明確化	
<input type="checkbox"/> 教員の説明 <input type="checkbox"/> 生徒による説明	
<input type="checkbox"/> 繰り返しによる定着 <input type="checkbox"/> 典型例の提示 <input type="checkbox"/> 創作活動	
<input type="checkbox"/> 失敗例の振り返り <input type="checkbox"/> 体験の想起 <input type="checkbox"/> 体験の代行 <input type="checkbox"/> 比較	
<input type="checkbox"/> 振り返り <input type="checkbox"/> 生徒同士の教え合い <input type="checkbox"/> その他（ ）	
活用したコンテンツ	
PC、i-pad	
活用した機器	
<input type="checkbox"/> IWB <input type="checkbox"/> タブレットPC <input type="checkbox"/> 実物投影機	
<input type="checkbox"/> その他（i-pad ）	

1. 本時の展開

学習の流れと子どもの活動	指導・支援のポイント	使用した機器やコンテンツ
<p>本文を読む。</p> <p>インタビューの目的、方法、構成等についてのノウハウを聞く。</p> <p>架空のインタビューを行うために、インターネットで、特定の人物を選び、その人物についての事前調査を行う。</p> <p>親、兄弟、先生、友だちから1人、インタビューの対象者を決め、実際に行う。 その時、ペアを組んだ者がその様子を撮影する。</p> <p>インタビューの様子を写し、意見交換を行う。</p>	<p>事前にワークシートを作成し、簡潔に伝えられるように配慮する。</p> <p>個別学習となるので、要領よく行えるよう机間巡視で生徒の作業の様子をチェックする。</p> <p>ここでは先生か友だちということになり、まず一組に実施させ、他の生徒の意見を聞くこととする。</p> <p>どのようなインタビューがいかについて生徒から意見を出させる配慮を行う。</p>	<p>P C</p> <p>i-pad</p> <p>I W B</p>

<協働学習の実施状況>

- 生徒が相互に教え合う場面があった 数名が一緒に学び合う場面があった
- 数名が協力したり助け合ったりする場面があった 数名が話し合う場面があった
- 一人が発表したことについて学級全体で考える場面があった
- 同じ問題について、学級全体で話し合う場面があった
- ネットワークを使って遠隔地と結んで学ぶ場面があった

2. 情報通信技術の活用のねらいと効果

(1) 活用のねらい

ペアの取組を全体のものとして共有化するために有効であると考えている。

(2) 活用により期待される効果

自らの体験を客観的に見ることができ、学級全員の生徒とねらいを共有できる。

3. 実践上の課題

時間上の制約がある。I-padの操作に予想以上の時間が掛かり、想定していた範囲まで進むことができなかった。

※本報告は、2頁を超えて作成しても構わない。

※本報告とあわせて、授業の動画や写真を提出する際は、Webでの公開など広く使用されることも考えられることから、保護者の了解を得るなど必要な対応を行うこと。